

秋空の静かな午後、五十肩と言われて半年、痛みは変わらずだが左手に微かな震えが、嫌な予感と不安が交錯する中病名がわからず病院通い。三か月後、難病指定のパーキンソン病と診断された。

なかなか受け入れられず、ポケットに左手をつっこむのが癖になった。私はこの時登校を見守る『緑のおっちゃん』を約10年間していました。大人は遠慮してくれますが子どもはそうはいきません。「おっちゃん手震えてるで」「なんでなん」心配してくれている気持ちはわかるのですが言葉を返すことが出来ず、左手はポケットの中が定位置になった。

春休みが終わり 2016 年度を迎えましたが、まだまだ受け入れられない自分。子どもたちとどう接したらいいのかわからない状態でした。顔見知りの少女が新一年生として入学してきました。卒園式以来の再会でした。震えを隠しきれなくなってきたポケットの左手が気になったのか

「手震えてるな、どうしたん、病気？」

「そうやねん。なんでか手が震えるねん。」

と答えると両手で優しく、震える左手をにぎり

「震えたら私がこうやって手をつないだるわ。そしたら止まるやろ」と天使のような笑顔で言ってくれました。少女が、瞬時にありのままの自分を受け入れてくれたことに驚きと、病気と認めたくない自分に「何してんねん俺」とつぶやいていました。これを機に病気とも人とも正面から向き合うことができ、地域学校協働活動(アシスト)と出会い今にいたります。

彼女もはや中学三年生。その間に彼女のような天使が6人ぐらいいました。

『緑のおっちゃん』も20年目、最近孫が急増中です((笑))